

令和4年度 地域支え合い報告会

12月8日(木)文化会館中ホール 主管:社会福祉法人 名取市社会福祉協議会

高齢化が進む中、市では、生活支援体制整備事業として、誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるまちづくりを推進しています。医療や介護のサービスだけではなく、地域の住民同士のつながりや、支え合いの活動が重要です。

報告会では、住民の皆さんの知恵と工夫が詰まった支え合い活動「お宝」についての共有と、活動のさらなる活性化を目的に、支え合い活動の意義についての講話、取り組み事例の発表を行いました。

講話

テーマ 『支え合いの重要性～ご近所付き合いはたからもの～』

講師 東北子ども福祉専門学院 副院長 大坂 純 氏



- 感染症の流行により、自然な支え合いがなくなる、日常の活動性が下がるなど、暮らしへの影響があります。社会とのつながりを失うことは、フレイル(虚弱)への入り口となります。
- 社会とのつながりがあると、願い(健康長寿)がかなえられ、住民のありたい姿を実現することができます。「人生の最後まで楽しい名取市」の実現は、社会とのつながり・支え合いの推進によって達成されます。
- コロナ禍でも活動を継続している団体のように、感染症に振り回されることなく、「正しく恐れて自分らしく暮らす」ことがとても大切です。

第1層生活支援コーディネーターが進行役となり、市内で活動している団体の代表者と担当の第2層生活支援コーディネーターが、活動内容やきっかけ、想いについて発表しました。楽器の演奏やダンス、体操の実演があり、会場内が手拍子で盛り上がる場面もありました。

講師の大坂 純 氏と山田市長がコメンテーターを務めました。

ゆりが丘地区:ひまわり会 本郷 力夫 氏、関田 清美 氏

名取西地域包括支援センター 第2層生活支援コーディネーター 宮崎 博規 氏

- 家の外に出て誰かと話すことが元気の秘訣であると思い、お散歩見守り活動「AKB運動(※1)」、「わんわん見守り隊(※2)」を始めました。住民同士が挨拶を交わすことでつながりの輪が広がっています。
- ※1 A(歩こう・挨拶しよう・遊びと安全)・K(声掛けしよう・危険情報の共有・絆を見直そう)・B(婆ちゃんに手を貸そう・ばっちり守り守られる地域を目指そう)を意識して行っています。
- ※2 特製のバッチを身につけ、飼い犬の散歩をしながら地域の見守り活動を行っています。

【コメンテーターより】

- 試行錯誤をしながら、地域にあるものを使うという発想が素晴らしいです。
- 住民同士が挨拶を交わすことで、悪い人が寄ってこない元気で強い地域になります。



写真:本郷氏と関田氏

館腰地区:飯野坂21 佐々木 由美子 氏、山口 よし江 氏

名取南地域包括支援センター 第2層生活支援コーディネーター 毛利 千恵 氏

- 飯野坂のアイドルを目指して頑張っています。なとりん体操を始め、ごぼう先生の健康体操やお米ダンス、名取市民歌や童謡を手話で表現するなど、みんなで考えを出し合い、明るく元気に健康維持活動をしています。
- 普段から農作業をしても、意識しながら体を動かすことをしないと、体が痛くなってきます。参加者はみんなシャンシャンと歩くことができ、活動を続けていれば、ずっと健康でいられます。やってみたいと思った人はぜひ実践してほしいです。



写真:飯野坂21のみなさん

【コメンテーターより】

- 参加者が互いに協力しながら目標を持ち取り組むことで、長く活動できているのだと思います。
- 健康長寿のための活動紹介を住民から聞くことができたのは本当に素晴らしいことです。

地域支え合い活動発表

問 介護長寿課長寿健康係 ☎724-7111